

# 学内におけるコンサートの実施とその効果

## Research of the effect of a classical concert at university

次世代教育学部こども発達学科

大山宮和瑚

OHYAMA, Miwako

Department of Child Development

Faculty of Education for Future Generations

キーワード：音楽教育，学習意欲向上，地域貢献

### I. はじめに

幼稚園教諭，保育士養成課程において，ピアノ演奏や弾き歌い等の音楽学習は不可欠である。だが，保育者を志してから音楽学習を開始する学生の中には，ピアノの演奏技術習得に不安を感じる者は少なくない。マンツーマン型の授業形態は，こういった学習者に対して，個々のレベルと進度に合致する指導を行えるという点で有効だが，きめ細かい個人指導を行ってもなお，高い学習意欲を恒常的に持続させることは容易ではない。

音楽分野における学習意欲向上の手段の一つとしては，近年全国的に盛んに行われているアウトリーチ活動が挙げられる。一般財団法人地域創造をはじめとして，各文化財団，公共施設，オーケストラ団体，音楽大学などが活発にアウトリーチ活動に取り組んでいるが，主な活動の場は，①幼稚園，小中学校 ②福祉施設 ③ホールや美術館などの公共施設であり，保育者を目指す学生がこの恩恵を受けるためには，③に該当するホールや公共施設で行われるアウトリーチ事業に参加するほか無い。さらに，公共施設で開催される公演に参加するためには，情報収集や申し込みなど，聴衆としての積極的な行動が求められる。これは音楽分野に対して興味が無い者にとっては学習のチャンスをさらに遠ざけてしまうステップであるように思われる。

そこで今回，保育者を目指す学生の音楽学習意欲の持続や向上を目的とする，大学構内での音楽鑑賞会型アプローチを企画し実践した。また，この実践は同時に近隣住民などの学外者にも開放し，地域への芸術的

### II. 実施方法

実施日：2016年11月14日（月）19：00～20：30

※休憩時間を含む

実施場所：環太平洋大学第1キャンパス フィロソフィア ロビー

対象者：環太平洋大学学生，環太平洋大学教職員，学外申し込み者

配布物：演奏会プログラム，アンケート

プロの演奏家によるリサイタル形式とし，来場者を対象にアンケート調査を行った。

招聘演奏家には，本学マーチング部の活動と実績から比較的馴染みがあると思われる金管楽器奏者をソリストとして選出し，京都市交響楽団トランペット奏者の稲垣路子氏にお願いした。

コンサートの時間構成は前半30分－休憩15分－後半30分－アンコール5分で，公共ホールなどで行われるフルリサイタルプログラムコンサートに近い内容となった。演奏曲目については，クラシック音楽を聴き慣れている客層とそうではない客層の両方をカバー出来るように心掛け，前半にはトランペットのためのオリジナル作品の中からバロック時代のオーソドックスな作品と近現代のテクニカルな作品を，後半には特に歌曲を中心とした短く耳馴染みの良い作品をプログラミングした。また，曲間では演奏者のトークを適宜差し挟むこととした。

アンコールを除くすべての演奏作品には簡単なプログラムノートを記載し，作品についての理解が深まるようにした。当日配布した演奏会プログラムは，次のとおりである。

時Miwako Ohyama Presents ミューザ達からの贈りもの vol.1

叡智を讃えるトランペットの調べ

稲垣 路子(トランペット)  
大山 宮和瑚(ピアノ)

2016年11月14日(月)  
環太平洋大学 第1キャンパス フィロソフィア

後援 こども発達学科

Program

ジュゼッペ・トレッチ: トランペットソナタ ニ長調 G.1

アレクサンドル・アルチュニアン: トランペット協奏曲

～休憩～

ジェームス・パーク: マジックトランペット

山田 耕作(詩: 三木 麗風): 赤とんぼ

越谷 達之助(詩: 石川 啄木): 初恋

マヌエル・デ・ファリャ: 7つのスペイン民謡

1.El pino moruno 2.Seguidilla murciana 3.Asturiana 4.Jota 5.Nana 6.Cancion 7.Polo

### ご挨拶

本日は「歡智を讀めるトランペットの調べ」にお越しいただき、誠に有難うございます。この演奏会の発案から具体化まで、実に多くの方々の暖かいアドバイスとお力添えをいただきました。ご協力とご支援をくださいました皆様に、心より感謝申し上げます。

さて、“ミュージズ達からの贈りもの”シリーズの幕開けには、日本を代表する女性トランペット奏者、京都市交響楽団団員の稲垣路子さんにお越しいただきました。トランペットは祝祭的なシーンで必ずと言って良いほど登場する、荘厳で力強い楽器です。学生達の歡智を育むフィロソフィア。この建物を彩る、稲垣さんの暖かく豊かなトランペットの響きをお楽しみください。

#### 稲垣 路子 (トランペット)

名古屋市出身。愛知県立芸術大学音楽学部卒業。桑原賞受賞。卒業演奏会、ヤマハ新人演奏会出演。第25回日本管打楽器コンクールトランペット部門第1位。第78回日本音楽コンクールトランペット部門第1位。岩谷賞、E.ナカミチ賞受賞。2010年リサイタル開催。竹本義明、津堅直弘、武内安幸の各氏に師事。日本(旧大阪)センチュリー交響楽団を経て、2011年8月より京都市交響楽団トランペット奏者。プラスアンサンブル・ロゼ、七吹神喇叭倶楽部メンバー。大阪音楽大学、相愛大各非常勤講師。

#### 大山 官和翔 (ピアノ)

愛知県立芸術大学を経て同大学大学院修了。第4回三善晃ピアノコンクール金賞。第42回なにわ藝術祭(新進演奏家競演会)新人賞、大阪府知事賞、大阪市長賞、大阪製紙賞の各賞を受賞。Uwe Koniachko (元ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団首席トランペット奏者) Thomas Hooten (ロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団首席トランペット奏者) 等、国内外の演奏家と共演。倉田佳代子、山田富士子、藤田孝、徳木悦子、稲垣聡、渡邊健二、牧野譲の各氏に師事。東太平洋大学特任講師。

#### ジュゼッペ・トレッリ：トランペットソナタ ニ長調 G.1

ジュゼッペ・トレッリ (1658-1709) は中期バロック時代におけるイタリアの重要な作曲家であり、ヴァイオリニストです。彼がヴァイオリニストとして勤めたボローニャのサン・ペトロニオ大聖堂には、当時、トランペットの大変な名手がいまして、そのため、トレッリはトランペットのための作品を精力的に作曲したようです。トランペットソナタニ長調 G.1は、4楽章構成の、トランペットと独奏のための作品です。当時はナチュラルトランペットで演奏されていましたが、楽器が発展し改良された今日では、ピッコロトランペットを用いて演奏される機会が多いようです。

#### アレクサンドル・アルチュニアン：トランペット協奏曲

旧ソビエト連邦のトランペット奏者ティモファイ・ドクシツェルのために作曲された、トランペットソロとオーケストラのための作品です。ボリショイ劇場の首席トランペット奏者として活躍した彼は、多くの作曲家から作品を献呈されました。アルメニア出身のアレクサンドル・アルチュニアン (1920-2012) もその1人です。華やかな技巧を必要とするだけでなく、アルメニアの民族的な響きと力強さを感じさせるこの作品は、世界中で高い評価を得ました。今では、アルチュニアンの代表的作品であると同時に、多くの作曲家が書いた数あるトランペット協奏曲の中でも大変重要なレパートリーの一つに数えられています。

#### ジェームス・パーク：マジックトランペット

20世紀を代表するホルネットの名手、ジェームス・パーク (1923-1981) によって書かれた作品です。ゴールドマン・バンドで長きに渡りホルネットソリストを務めたパークは、戦争で右手首から先を失ったにもかかわらず、左手での演奏を続けました。(通常は、左手で楽器を支え右手でピストンを操作する) 彼は演奏者であると同時に多くのホルネットと金管バンドのための作品を残しましたが、その殆どは彼の不幸な体験を微塵も感じさせない、明るく活力に満ちたものです。マジックトランペットはそれらの作品の中で最もよく知られ、演奏されています。

### 山田 耕作 (詩: 三木 露風): 赤とんぼ

子どもの純粋な情緒を育むためのお話や歌を創作する、鈴木三重吉の赤い鳥運動に賛同した三木露風(1889-1964)は、1921年に童謡集『真珠島』を出版しました。「赤とんぼ」は、この童謡集に収められています。幼少期を兵庫県丹波郡鹿野町(現在のたつの市)で過ごした露風は、故郷に寄せる思いからこの詩を書いたと言われています。露風のノスタルジー溢れる詩と日本におけるクラシック音楽の基礎を築いた山田耕作(1886-1965)の美しいメロディが調和した、よく知られた童謡の一つです。

### 越谷 達之助(詩: 石川 啄木): 初恋

石川啄木(1886-1912)は、妻・節子との若き日の甘美な思い出を『砂山の砂に渡道ひ 初恋のいたみを遠くおもひ出づる日』という短歌に認めました。この句は、歌集『一握の砂』に収められています。音楽教育者であると同時に優れた伴奏者でもあった越谷達之助(1909-1982)は、「初恋」を含めた啄木の15編の短歌に作曲をし、歌曲集『啄木によせて歌える』として発表しました。この歌曲集の第1曲目に採えられた「初恋」は越谷の代表作であり、日本歌曲の大変重要なレパートリーとして歌い継がれています。

### マヌエル・デ・ファリャ: 7つのスペイン民謡

マヌエル・デ・ファリャ(1876-1946)は、スペイン・カディス生まれの作曲家です。彼の作品にはスペイン民族音楽の色濃い影響がみられますが、特に彼が興味を寄せていたのが、アンダルシア地方のフラメンコと言われています。「7つのスペイン民謡」は、歌とピアノのために書かれています。スペイン民族主義を見事に表現したこの作品は、ソロ楽器とピアノ、もしくはギターといった編成でしばしば演奏されます。

(大山 宮和瑠)



写真1 当日の会場の様子

### Ⅲ. アンケート結果からみる実施の効果

来場者65名のうち、有効回答者数は47名。うち、器楽演習履修者22名に関して、これまでのクラシック音楽のコンサート参加経験は図1のとおりである。

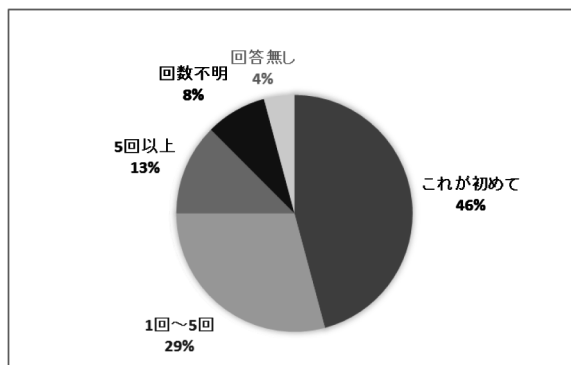


図1 器楽演習履修者のクラシックコンサート参加経験

主なアンケート結果は次のとおりである。

Q. コンサート内容はどうでしたか？

- 満足 96%
- やや満足 4%
- 普通 0%
- やや不満 0%
- 不満 0%

Q. コンサートの長さはどうでしたか？

- 長い 0%
- やや長い 4%
- ちょうど良い 96%
- やや短い 0%
- 短い 0%

Q. クラシック音楽に興味を持ってましたか？

- 以前より興味が出た 83%
- 変わらない 17%
- 以前より興味を持てなくなった 0%

自由記述では以下の様な回答が得られた。

<演奏内容に関わる回答>

- ・今までは主にジャズを聴いてきたが、クラシックもとても良かった
- ・出演者の人間関係の良さが、音楽を通して伝わってきた
- ・トランペット協奏曲がかっこよかった

- ・女性であれだけトランペットを吹く力があるのは凄い、かっこいい
- ・すごい迫力だった
- ・赤とんぼが印象的だった

<心身の状態に関わる回答>

- ・一日の疲れが取れた
- ・部活終わりに癒された
- ・心がなごんだ

<運営に関わる回答>

- ・カメラのシャッター音が気になった
- ・もう少し響きの良いところで聴きたい

### Ⅳ. まとめ

日常的にクラシック音楽を聴く機会のない学生にとって1時間強のコンサートは少々長すぎるかと思われたが、マナーも大変良く、集中して聴いていた印象である。また、アンケートには記載されなかったが、会場撤収の際に早速会場のピアノ椅子に座り「ピアノを練習したくなった。」と音を出してみる学生、「次は〇〇が聴きたい。」と次回開催時の希望を伝える学生もいた。また、ごく一部ではあるが、演奏者の身体状態を見て自身の身体の使い方について考えたと言う学生もあり、演奏法改善の啓発萌芽にも直結したように思われる。演奏会開催後の授業でもコンサートの感想を述べる学生が少なからずおり、特に再履修者においては、演奏会前と比較して積極的に自主練習を進めてくる学生が増えたことは特筆すべきであろう。

アンケート結果及び参加学生のその後の反応から、当初の狙いであった音楽学習の意欲向上という点において、十分な結果を得ることが出来たと言える。ただし、この学習意欲の恒常的な持続についてはさらなる研究観察が必要であるが、地域の芸術文化の発展に寄与するという点でも、今後もこうした演奏会を通しての教育活動を続けていくことは大いに意味のあることであると考えられる。

### 参考文献

- 林陸『音楽のアウトリーチ活動に対する研究：音楽家と学校の連携を中心に』、Bookpark, 2003年
- 平松愛子「ピアノ学習への意欲が向上する指導法について～1年次前期の取り組みから～」、『近畿大学九

- 州短期大学研究紀要』第41号, pp.43-58, 2011年
- NPOトリトン・アーツ・ネットワーク『アウトリーチハンドブック』, TANアウトリーチハンドブック制作委員会, 大阪村上楽器, 2007年
- 岡部裕美, 鈴木佳代子「学校と演奏家の連携による音楽教育の可能性－継続的なアウトリーチ活動の事例を追って－」, 『千葉大学教育学部研究紀要』, 第58巻, pp.109-120, 2010年
- 田中慈子「保育者養成校における学習意欲を高める音楽の指導法」, 『京都光華女子大学, 京都光華女子短期大学部研究紀要』, 第53号, pp.109-118, 2015年